

## ●平成 27 年度一般選抜後期日程についての講評等

### 【後期試験の基本方針】

宮崎公立大学人文学部国際文化学科が行う「総合学力試験」として、本学の教育理念とアドミッション・ポリシーを踏まえ、以下の 3 点を念頭において作題した。

- 1 地域社会と現代国際社会が直面する国際的・文化的かつ現代的な内容を取りあげる。
- 2 内容の正確な理解と、得られた理解と情報を活用して的確に判断する能力とを問う。
- 3 自らの体験・価値観や具体的情報・知識を活用しつつ、合理的な評価ならびに妥当な判断を「小論文」として具体的にかつ説得的に表現・展開する技能と態度を問う。

問 1 下線部①の中の **that** が示す内容を踏まえて、日本語訳する問題であるが、直前の **But** に着眼すれば、容易に指示内容の箇所を推測できる。ほとんどの受験生が指示内容に関しては問題なかった。但し、下線部中の **not necessarily the case** の意味を正しく理解できていない受験生が半数近くいた。

問 2 下線部②の訳であるが、**…is not…,but rather…**に着眼すれば容易に訳せる問題である。但し、3 分の 1 以上の受験生が **obey** の意味を理解できていなかった。

問 3 下線部を具体的に説明してある箇所を訳する問題であり、日本語の指示文をよく読めば容易に解答できる問題である。但し、受験生の半分近くが、**While A…, B…** の構文を正しく訳せていなかった。また、**improve** の意味を理解できていなかった受験生も半数近くいた。

問 4 入試において英文を訳すとき、構文の成り立ちや単語と単語の結びつきを正しく理解していることが採点者に伝わるように答案を書くことが最重要である。次に、文章の流れを勘案しながら、自然な日本語表現になるよう推敲しなければならない。前者に関しては、**advise A to …**を「A に～するように勧める」と訳せるか否かが重要である。次に、**the same A as B**を「B と同じような A」と訳せるか否か、B に相当する **those used by their children**を「彼らの子どもたちによって用いられているもの」と訳せるか否か、これを統合して「彼らの子どもたちによって用いられているものと同じような A」と訳せるか否かが分かれ目となる。後者の日本語表現に関しては、**some experts**を「専門家の中には～する人がいる」と訳せるか否かが分かれ目となる。どれを取っても高校までの英語学習を徹底することで充分答えられる内容である。

問 5 2 文の訳が問われているが、最初の英文でまず重要なのが、問 4 の **advise A to …**と

同じく、urge A to ...は「Aに～するように説得する・促す・勧める」という点である。次に、この「～」に相当するところに、andで繋がれたvalueとfocusという2つの動詞があることに気付かないといけない。2番目の英文は、understandに続くthatは文を導く接続詞であること、その文の主語itは仮主語で、意味的にはto disagree with othersが主語である。a healthy part of a relationshipを「人間関係の健全な一部分」と訳していない答案も目立った。問4と同じく、高校までの英語学習を徹底することで充分答えられる内容である。

以上、問1～5における下線①～⑤は、上記講評のなかにあるように重要な基礎事項の定着をみるものである。それとともに、下記問6の解答にあたり参考になる部分にほどこされたものである。

問6 問の枠組みを、問題文1・2を参考に400字程度でまとめ、それを踏まえて自身の考えを400字程度で述べるというものとし、受験生が答案を作成しやすいよう配慮した(まとめる際には引用時には「」を用いることも受験生に伝えた)。このように問題文1・2は、小論文の作成に役立つことを視野に入れて用意されたものであるが、受験生の解答と問題文1・2の重なりは十分に見受けられた。しかしながら、問題文1・2を「参考にして」記述しているかどうか判然としない答案も若干見受けられた。

問の前段のソーシャルメディアの有益な点とそうでない点については、「ソーシャルメディア」の定義を、問題文2の冒頭で「ツイッターやフェイスブックなど、既存のメディアと異なりインターネットで情報をやりとりする」と示している。それにもかかわらず、インターネット全般やスマートフォン全般について記述している答案も見られた。

問の後段の「あなたの考えを400字程度で具体的に述べなさい」は、本学の3つのアドミッション・ポリシーのうち第二の「地域社会のみならず広く国際社会の課題の探究と解決に、主体的に取り組む姿勢を持つ人」に掲げられている、社会の課題の解決への主体性をみるものである。具体的には、それぞれの問題文に書かれている主張を踏まえそれに自身の意見を加えて補強したりあるいは批判的かつ建設的な意見を述べることを期待して設けたものである。そうした期待を満たす解答が見られた一方で、問題文の主張をなぞるだけで「あなたの考え」が書かれていない答案も見られた。

なお、半数強の答案に、漢字や送り仮名の間違い・不正確な日本語の使用・原稿用紙の不正確な使い方のいずれかが見られた。平素より国語の学習を大事にするとともに、新聞や本を読むことを通して、正しい日本語を身につけることが重要である。